

1981～1982 〈第 865 回例会〉 第 11 回

9 月 9 日の記録

●司 会 岩塚 陽一 会長 ●斉 唱 我等の生業

## ●会長報告 岩塚 陽一 会長

本日は第 2 回目の夜間例会でございます。歴代会長のせつなる声で、本日は、当クラブとしては、初めての未完成での夜間例会です。色々と趣向もありますので、時間のゆるすかぎり、ご歓談下さいませようお願い致します。

○例会終了後、市川会員の乾杯で懇親会が始まり、ビンゴゲーム、競馬レースが行われ、歌謡ショーは広瀬親睦委員長の司会で、三沢会員、鈴木会員、深瀬会員、北村会員、南会員の当クラブのベテラン歌手が登場し、最後は俣野会員の乾杯で懇親会を終わりました。

## ●親睦活動委員会 ニコニコBOX 投入のお知らせ

鈴木会員・西川会員・中里会員・松本会員・吉井会員・松橋会員・西巻会員・浜会員・高橋会員・広瀬会員・田中会員・沢村会員……夜間例会を楽しく

## ◎ 出席報告

会 員 数	67 名	出 席 率	函 館 北 9 月 2 日	98.5
出 席	51 名		函 館 東 9 月 1 日	95.5
欠 席	16 名		函 館 8 月 27 日	96.5
他 クラブ 出席	15 名		函館五稜郭 8 月 28 日	100.0
出 席 合 計	66 名		函 館 亀 田 8 月 31 日	87.5
除 外 者	0 名			

次回・9月30日  
プログラム

国際交流のつどい……今後の抱負

北海道国際交流センター 秋尾 晃 正 氏

例会日：毎週水曜日 12:30～13:30 例会場：函 館 国 際 ホ テ ル

事務所：函館市大手町5-10 日魯ビル3F TEL (0138) 23-3870

第251地区 第7分区



1981～1982

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

函館北ロータリークラブ

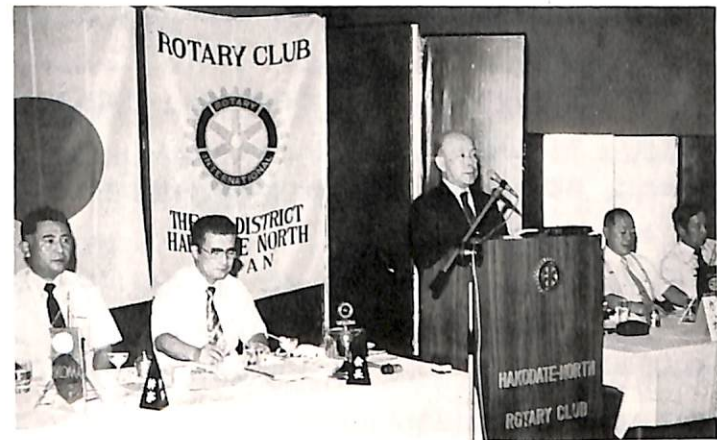
会

報

スタンレー E. マッキヤフリー R.I. 会長 テーマ

World Understanding and Peace Through Rotary

『ロータリーを通じて世界理解と平和を』



佐久間ガバナー公式訪問 8月26日 撮影…下郡山 会員

《第 867 回例会》 第 13 号 9 月 30 日(水)

本日のプログラム

国際交流のつどい……今後の抱負

北海道国際交流センター 秋尾 晃 正 氏

★ 会 長 岩塚陽一

★ 幹 事 松橋 博

## 1981～1982〈第866回例会〉第12回

## 9月16日の記録

- ◎司 会 佐々木 椎名 副会長 ◎斉 唱 我等の生業  
 ◎ビジター 小樽南R.C. 小松 清君 函館R.C. 小林 明君他8名  
 五稜郭R.C. 西村 憲人君他5名 五稜郭R.C. 加賀谷喜一君他1名  
 ◎ゲ ス ト 函館ラ・サール高校 亀浦 芳孝神父

## ◎会長報告 佐々木 椎名 副会長

- R.I.より、1982年国際ロータリー年次大会の案内が来ました。1982年6月6日～9日、於て、米国テキサス州ダラスです。ご希望の方はお申し込み下さい。

## ◎幹事報告 松橋 博幹事

- 去る9日の夜間例会は、当北R.C.として初めてのキャバレーでありましたが、49名の出席を得て、楽しく開催されました。  
 ○10月14日の例会は、移動例会となります。函館空港施設の見学を致します。多数のご参加をお願い致します。  
 ○先日ご協力載きお送りした水害義援金に対し、ガバナーより丁寧な礼状が参っております。  
 ○函館青年会議所理事長から、市民大レクリエーション大会のお礼状が参っております。  
 ○函館聾啞協会からも礼状が参っております。  
 ○ロータリー・カレンダーの申し込みが例年通り来ましたので、回覧致します。ご希望の方は、お申し込み下さい。  
 ○ガバナー公式訪問の際写した、記念写真が出来ました。1枚1,000円です。全会員にお買上げをお願い致します。

## ◎親睦活動委員会 ニコニコBOX投入のお知らせ 上木原 孝志 会員

中川 会員……お陰様で函館マネキン17年目の許可がおりました。

中野 会員……この度、函館青年会議所友好訪中団と、中国各地を訪問し、無事帰国致しました。

市川・関本・南・深瀬会員……先週の夜間例会とても楽しかったので。

広瀬 会員……先週の夜間例会にご協力感謝致します。

椎谷 会員……ホームクラブ欠席がちのお詫び。

平野 会員……店舗改装が終了しました。

寺田会員(函館R.C.)…会費のおつりを。

伊藤(岡)会員……ニコニコBOXに協力致します。

戸崎 会員……夜間例会欠席のお詫び。

## ◎卓 話 "アメリカで出会った人々"

函館ラ・サール高校 亀浦 芳孝神父

私は、昨年7月1日より、今年6月末まで、アメリカ、ニューヨーク市にいますメリノール神学校(カトリック教会に属する人びとで、神父になりたい人、あるいはブラザーになりたい人が養成、教育を受ける学校のひとつ)へ留学してきました。メリノールというのは「マリアの丘」(Mary・hill)という意味で、アメリカで生まれた宣教会です。会員の神父、ブラザーは、世界各国に宣教に出かけます。(メリノール会には、女子の会もありまして、会員のシスターたちも世界各国へ宣教にいらしております。)メリノール神学校は、ニューヨーク市郊外にありまして、大変静かな、落ちついた環境にあります。私の年令で留学などというのは少しおかしい感じもすると思いますが、ラ・サール高校に7年勤めまして、自分の歩みを見つめる時間の必要を感じておりました。

神父という仕事は、キリストの教えを人びとに伝えると同時に、人びとの心に触れる仕事です。ですから、自分が接する人びとの心の動き、心の状態を敏感に感じとれる繊細さが大切になります。もちろん、自分自身の心の動き、心の状態にも敏感でなければなりません。そのためには、ときどき、今働いている仕事から、完全に離れ、自分を見つめ直し、同時に、これからの自分の姿勢をつくり、熟考する必要があります。このような理由で、私はメリノール神学校へ出かけました。

メリノール神学校には、アメリカ人はもちろん、アフリカ、南アメリカ、ヨーロッパ、アジアと沢山の国の人びとが来ていましたが、日本人は私ただひとり

した。英語の特訓教育を受けましたが、はじめの2～3カ月は、無我夢中で生きました。やがて、いい友達もでき、楽しい生活になりました。

1年間のアメリカ生活で、私は多くの人びとに出会いました。経済的に豊かな人、貧しい人、立派な家に住んでいる人、みずぼらしい家に住んでいる人、すべてに恵まれ幸福一杯の人、肉体的障害で苦しんでいる人、アルコール中毒の人とも会いました。これらの人びとの中で、私が出会いを感じた人びとは、心問題をかかえている人びとでした。

私のアメリカにたいする印象ですが、淋しい人びとが一杯の国、というひとりの印象があります。(これは、あくまでも主観によるひとつの印象で、他に、山すばらしい印象もあります。)ありとあらゆる人種から成り立っている国アメリカ、その生活状況は、日本のように単一民族から成る国と違って、大変厳しいものです。そのひとつとして、他の人びとと接するとき、いかに自分は自律した人間であるかを示さなければならないようです。そこには、妥協、甘さなど、余餘がないようです。しかし、その反面、人びとの心に空漠とした部々があるようにも思えるのです。

私たち人間は、誰れひとりとして、ひとりぼっちの状態では生きられません。しかし、これほど物質的に豊かになったにもかかわらず、今の社会の中で、「ひとりぼっち」と感じている人びとが多いのはどうしてでしょうか。日本も例外ではありません。アメリカも日本も、特に年をとった人びとに多いように思えます。

アメリカでの生活中、私は、ときどきニューヨーク市内の教会で、日曜日の祈り=ミサ(神さまに捧げものをする儀式)に参加しました。ミサの後、ティパーティーがあり、その席上いろいろな人と話す機会がありました。それぞれの場、それぞれの場で一生懸命生きている姿勢に触れ、感動することもたびたびありました。

ある日曜日のこと、いつものように教会へ行き、お祈りを終え、お茶を飲みながら、いつものように出席した人びとと話しをしていました。そのとき、ひとりの顔色の悪い50才前後の男の人が私たちのほうへ近づいて来ました。私があるのほうを見ると、その人はにっこりほほ笑んで挨拶し、自己紹介をしてくれました。その人の様子から、たぶん煙草が欲しいのではないかと思い、ちょうど自もすいたかったので、すすめました。彼は礼を言って受け取り、私たちのグループから離れていきました。しばらくするとまたやってきました。私は黙って煙

を差し出しました。彼は、にっこりほほ笑み受け取りました。なんどか同じことをくり返しているうちに、私と話をしていた人びとも1人去り、2人去り、私も帰る支度をしようと思っていたとき、さっきの人が、また近づいて来ました。私は煙草をすすめ、彼が受け取り、別れの挨拶をしようとしたところ、「もし、時間がありましたら話をしましょう。私の話を聞いて下さい」と言うのです。彼と私はひとつの部屋で向いあい、話を聞きはじめました。

彼はアルコール中毒者でした。奥さんとは離婚、3人の子供さんたちも、みんな奥さんについて行ってしまいました。今は、たったひとりで、小さなアパートで暮らしています。生活は教会の仕事を手伝い、その収入で細々と暮らしているとのことでした。今一番強く思うことは、子供たちに会いたい。そう感じると、やりきれない淋しき、孤立感に隔ってしまう。誰れかにうったえたい、そして、なんども試みたけれど、彼の話を真剣に聞いてくれる人はいなかった。彼は心を閉ざし、やりきれない気持のまま過してきた。そしてあの日、たまたま出会ったひとりの日本人神父である私に、心を開いてくれたのです。彼は大粒の涙を流しながら、自分の心にあるわだかまりを話してくれました。私はなにも答えることができず、ただ一生懸命彼の話に耳を傾けました。彼の話を聞きながら、私の気持は大変重苦しくなりました。なぜなら、彼の話を聞くだけで、彼になにも出来ないからです。そんな私の気持が彼に伝わったのか、「心をこめて、私の話を聞いてくれて本当にありがとう。私の心に重くのしかかっていたものがとれた感じです。私は、あなたに、なにかしてほしいと思って、こんな話をしたのではありません。ただ聞いてほしかったのです。心から聞いてほしかったのです。現代はみんな忙しすぎます。多くの神父さんも忙しすぎます。だから、他の人の心の問題を真剣に聞けなくなってきているみたいです。どうぞ神父さん、いつまでも他の人の心の問題を、心をこめて、一生懸命聞く神父であって下さい。」私は、彼と話すことによって、もう一度、自分の使命を確認させられた思いでした。そして、今も彼の姿を、はっきり覚えています。(この話は、彼に了解を得ています。ですからここに書くことが出来ました。)

人間は肉体と精神を持つ存在です。私たちが生きていくうえで99%はお金あるいは現代科学が解決してくれるかも知れません。しかし、精神の問題、いわゆる心の問題の1%は、お金でも、科学でも解決できません。心からの話しあいの中に、なんらかの解決の方向が見つかるようです。私の人生は、ある意味で、この



1%にかけた人生ともいえます。この1%、心が豊かにならない限り、よりよいものを、次の世代に残すことはできないようにも思えるのです。心のこもったもの、心をこめたものだけが、精神的遺産として次の世代に残るのではないのでしょうか。私たちは、ときどき、自分にたいし「自分の精神的基盤がなんであるか」「自分の心に、精神的基準がしっかりしたものとしてあるかどうか」問う必要があるようです。物質的に豊かな国日本。果たして、心も同じように豊かと言えるのでしょうか。

一年間のアメリカの生活で、私のとらえたひとつの印象、淋しい人びとが多いアメリカを、私の出会ったひとりの人について話しました。私たちは、戦後、多くの影響を良い面でも、悪い面でもアメリカから受けました。しかし、日本で表面化している問題を見るとき、悪い面だけがあらわれてきているようです。

豊かな国日本、この言葉を物心両面から言い切れるようになりたいものです。そのためにも、心のささえ、生きる基準を持つべきだと、私は考えています。ありがとうございました。

◎ 出席報告

会 員 数	67名	出 席 率	函 館 北 (9月9日)	94.0
出 席	49名		函 館 東 (9月8日)	92.3
欠 席	18名		函 館 (9月3日)	99.1
他クラブ出席	14名		函館五稜郭 (9月4日)	100.0
出席合計	63名		函館亀田 (9月7日)	85.0
除 外 者	0名			

次回・10月7日  
プログラム

函館の街を知るシリーズその2

「函館の先史時代」

市立函館博物館 千代 肇 先生

例会日：毎週水曜日 12:30~13:30 例会場：函館国際ホテル

事務所：函館市大手町5-10 日魯ビル3F TEL (0138) 23-3870

第251地区 第7分区



1981~1982

The Weekly Report of

Hakodate North R.C.

# 函館北ロータリークラブ 会 報

スタンレー E. マックヤフリー R.I. 会長 テーマ

World Understanding and Peace Through Rotary

『ロータリーを通じて世界理解と平和を』



洞爺丸慰霊碑清掃奉仕 ガバナーと共に 撮影…下郡山 会員

《第868回例会》 第14号 10月7日(水)

本日のプログラム

《函館の街を知るシリーズ》

函館の先史時代

市立函館博物館 千代 肇 氏

★ 会 長 岩塚陽一

★ 幹 事 松橋 博